

公益社団法人 環境科学会 2026 年会 タイムテーブル

会場名		A会場	B会場	C会場	D会場	ポスター会場
部屋		F304	F306	F308	F310	
9 月 3 日 (木)	8:30	受付開始				ポスター発表 (閲覧のみ) ※11:00までに 掲示してください。
	9:00	口頭発表1A-1 気候変動・脱炭素・ エネルギー政策(1) 9:00～10:30 増原 直樹	口頭発表1B-1 資源循環・プラスチック・ 廃棄物(1) 9:00～10:30 三宅 祐一	口頭発表1C-1 環境政策・社会・市民・教育・ 行動変容(1) 9:00～10:30 野津 喬	口頭発表1D-1 大気・化学物質・PFAS・ 環境汚染(1) 9:00～10:30 亀屋 隆志	
	9:15					
	9:30					
	9:45					
	10:00					
	10:15					ポスター発表・討論 12:00～14:00 コアタイム 12:45～13:45 優秀発表賞審査・投票 14:00締切
	10:30					
	10:45					
	11:00	口頭発表1A-2 制度・経済・金融 10:45～12:00 鷲津 明由	口頭発表1B-2 資源循環・プラスチック・ 廃棄物(2) 10:45～12:00 徳村 雅弘	口頭発表1C-2 環境政策・社会・市民・教育・ 行動変容(2) 10:45～12:00 原 圭史郎	口頭発表1D-2 大気・化学物質・PFAS・ 環境汚染(2) 10:45～12:00 王 斉	
	11:15					
	11:30					
	11:45					
	12:00	昼休み 12:00～14:00				ポスター発表 (閲覧のみ)
	12:15					
	12:30					
	12:45					
	13:00					
	13:15					
	13:30					ポスター発表 (閲覧のみ)
	13:45					
	14:00	シンポジウム-1 「より良い」環境とは何か、どう創 出できるのか? ～「再生」の視 点, Planetary Healthの視点～	シンポジウム-2 循環経済移行に資する資源循 環トレーサビリティの開発とその 活用可能性に関する研究	シンポジウム-3 大都市のリジェネレーションのこ れまでとこれから	口頭発表1D-3 気候変動・脱炭素・ エネルギー政策(2) 14:00～15:30 増井 利彦	
	14:15					
	14:30					
	14:45					
	15:00	渡辺 知保 山内 太郎 14:00～16:30	松本 亨 藤山 淳史 14:00～16:30	白井 信雄 明石 修 14:00～16:30	口頭発表1D-4 森林・農業・バイオマス・ 自然資源 15:45～17:00 田畑 智博	
	15:15					
	15:30					
	15:45					
	16:00					
	16:15					表彰式・学会賞受賞記念講演 12:30～14:00 F309
	16:30					
	16:45					
	17:00					
	17:15					
	17:30					
	17:45					交流会 18:00～20:00 カフェテリア つどい (法政大学市谷キャンパス、富士見ゲート3F)
	18:00					

会場名		A会場	B会場	C会場	D会場	ポスター会場
部屋		F304	F306	F308	F310	
9 月 4 日 (金)	8:30	受付開始				ポスター発表 (閲覧のみ) ※12:30までに 撤収してください。
	8:45					
	9:00	シンポジウム-4 [受賞記念シンポ] 地域をテストベッドとする持続的 なグリーン水素社会システムの 検証	シンポジウム-5 [受賞記念シンポ] 環境意識・行動の促進に向けた 情報提供のあり方	シンポジウム-6 水と人の関係性の再編に向けて —価値観・インフラ・社会の統合 的理解—	口頭発表2D-1 都市・GIS・リモートセンシング・ 地域環境 9:00～10:00 吉田 磨	
	9:15					
	9:30					
	9:45					
	10:00					ポスター発表 (閲覧のみ)
	10:15	島崎 洋一	栗栖 聖	村上 道夫	口頭発表2D-2 生態・健康・災害 10:15～11:30 岸上 祐子	
	10:30	沼田 大輔	青木 えり	中村 高志		
	10:45	9:00～11:30	9:00～11:30	9:00～11:30		
	11:00					
	11:15					
	11:30	昼休み 11:30～12:30				表彰式・学会賞受賞記念講演 12:30～14:00 F309
	11:45					
	12:00					
	12:15					
	12:30					
	12:45					
	13:00					
	13:15					
	13:30					
	13:45					
	14:00					
	14:15					
	14:30					

※ シンポジウムの枠内の氏名はオーガナイザー、口頭発表セッションの枠内の氏名は座長です。

口頭発表（一般発表）

[1 日目(9 月 3 日)午前]

口頭発表 1A-1「気候変動・脱炭素・エネルギー政策(1)」A 会場(F304) 9:00–10:30

座長: 増原 直樹

- 1A-0900 気候変動影響を考慮したわが国の脱炭素シナリオの定量化
○増井 利彦, 砂川 淳 (国立環境研究所)
- 1A-0915 電力データによる空き家判定・分散型エネルギーリソース導入検討
○梁 霆鈞, 定行 泰浦, 有村 俊秀, 呂 冠宇 (早稲田大学, 成城大学)
- 1A-0930 店舗属性に着目した飲食店の食材調達における意思決定構造の分析
○鈴木 智子, 天沢 逸里, 草島 怜應, WU YINGLEI, 栗栖 聖 (早稲田大学, 東京大学)
- 1A-0945 マイボトル利用促進施策による CO₂排出削減の費用対効果の評価
山口 柊太郎, ○村野 昭人 (ヤオコー, 東洋大学)
- 1A-1000 変動性再生可能エネルギーの導入下における蓄電池導入のインセンティブに関する研究
○山西 友貴, 棟居 洋介, 金森 有子, 土屋 一彬, 増井 利彦 (東京科学大学, 国立環境研究所)
- 1A-1015 エネルギー政策ゲーム参加者の意識変容に関する分析
○増原 直樹, 山口 翔大 (兵庫県立大学)

口頭発表 1A-2「制度・経済・金融」A 会場(F304) 10:45–12:00

座長: 鷲津 明由

- 1A-1045 CCS の導入の環境・経済効果分析に向けて: 2020 年エネルギー社会技術分析用産業連関表(ESTR-IO)の応用
○鷲津 明由, 柳 懿秦, 下田 充, 新井 園枝 (早稲田大学, 日本アプライドリサーチ研究所, 経済産業研究所)
- 1A-1100 トランジションファイナンス: ラベル債の現状と今後の展望
○清水 規子, 荒木 真衣, 松本 薫子 (地球環境戦略研究機関)
- 1A-1115 Formal Coverage and Emissions Reductions under Regional Emissions Trading Systems: Evidence from Manufacturing Installations in Japan
○呂 冠宇, 田中 健太 (早稲田大学, 武蔵大学)
- 1A-1130 ESG 債券投資家による発行体へのエンゲージメントとその影響
○清水 規子, 荒木 真衣, 森田 香菜子, 松本 薫子 (地球環境戦略研究機関, 慶應義塾大学)
- 1A-1145 サステナブルファイナンスのイニシアティブの特徴と課題
○森田 香菜子, 清水 規子 (慶應義塾大学, 地球環境戦略研究機関)

口頭発表 1B-1「資源循環・プラスチック・廃棄物(1)」B会場(F306) 9:00–10:30

座長: 三宅 祐一

1B-0900 プラスチックの分解と分解物の同定

○宮副 瑛輝, 岡崎 恭也, 諸熊 恵美, 石橋 康弘, 中道 隆広 (熊本県立大学, 長崎総合科学大学)

1B-0915 多環芳香族炭化水素の吸着が海洋プラスチックに及ぼす光分解促進効果の評価

○渡辺 拓海, 滝川 哲也, 雨谷 敬史, 野呂 和嗣 (静岡県立大学, 国立環境研究所)

1B-0930 プラスチックの分解プロセスから生成する油状成分の分析

○岡崎 恭也, 宮副 瑛輝, 諸熊 恵美, 石橋 康弘, 中道 隆広 (熊本県立大学, 長崎総合科学大学)

1B-0945 繊維産業の循環型移行に関する MRIO 分析 — フランス衣類廃棄禁止法を事例として —

○勝又 淳司 (法政大学)

1B-1000 自動車保有構造を考慮した自動車由来再生プラスチック供給ポテンシャルの推計

○周 俊男, 田畑 智博 (神戸大学)

1B-1015 行政データを用いた産業廃棄物の処理実態の把握と有効利用の検討

○佐伯 孝 (富山県立大学)

口頭発表 1B-2「資源循環・プラスチック・廃棄物(2)」B会場(F306) 10:45–12:00

座長: 徳村 雅弘

1B-1045 産業連関表を用いた農業部門の温暖化負荷分析

○小田 秀充 (Independent Researcher)

1B-1100 廃材から環境負荷の少ない燃料電池の作製 ～祭りの廃材である竹の有効活用法の開発～

○市川 優輝, 山崎 翔太 (兵庫県立飾磨工業高校)

1B-1115 光害対策の現状と課題: 日本における学際的な議論に向けて

○越智 信彰 (東洋大学)

1B-1130 対数平均 Divisia 指数を用いた汚染物質排出削減努力の試行的検証

○亀屋 隆志, 反保 日向子 (横浜国立大学)

1B-1145 数理最適化を用いた廃プラケミカルリサイクル施設の最適配置モデルの実証

○山形 優斗 (法政大学)

口頭発表 1C-1「環境政策・社会・市民・教育・行動変容(1)」

C 会場(F308) 9:00–10:30

座長: 野津 喬

- 1C-0900 フューチャー・デザインによる世代間問題を理解するための教育プログラムの開発と実践 —大学間連携によるオンライン演習の事例—
○原 圭史郎, 小貫 元治, 上須 道德, 田村 誠, 小寺 昭彦, Pu JIAN, Marcin Pawel JARZEBSKI, 亀山 康子 (大阪大学, 東京大学, 茨城大学, 東洋大学)
- 1C-0915 学校現場における気候変動適応の実態と課題
○絹川 グリボスタン, 栗栖 聖 (東京大学)
- 1C-0930 気候市民会議つくば 2023 の振り返り
○松橋 啓介, 尾上 成一, 徳田 太郎 (国立環境研究所, 慶応大学, ウニベルシタスつくば)
- 1C-0945 高校生によるサニテーションすごろく制作
○牛島 健, 加藤 裕樹, 山内 太郎 (北海道立総合研究機構, 富川高校, 北海道大学)
- 1C-1000 環境配慮行動における平均以上・以下効果の特徴と是正実験
○甲斐田 直子, 平林 優希, 糸井 風音 (筑波大学)
- 1C-1015 社会的孤立が気候変動緩和行動意図形成における情報受容過程に与える影響
○糸井 風音, 甲斐田 直子 (筑波大学)

口頭発表 1C-2「環境政策・社会・市民・教育・行動変容(2)」

C 会場(F308) 10:45–12:00

座長: 原 圭史郎

- 1C-1045 地域循環共生圏の創出における中間支援組織と地域との関係性 —地方 EPO による実践例に基づく分析—
○野津 喬 (早稲田大学)
- 1C-1100 生成 AI が描く物語形式の社会像の特徴: 脱炭素シナリオへの応用
○中野 祐樹, 小澤 暁人, 本藤 祐樹 (横浜国立大学, 産業技術総合研究所)
- 1C-1115 地域の環境変化は場所愛着・場所アイデンティティの形成に関係するか?: 福岡市・京都市を対象とした住民認識分析
○及川 智也, 甲斐田 直子 (筑波大学)
- 1C-1130 気候変動対策に対する血縁者支援メッセージの効果: 生成 AI を用いた背景心理の定量化
○Adam Smith, 小松 秀徳, 窪田 ひろみ, 朝野 賢司, 永井 雄宇, Catherine Salmon, David Widman, Elisabeth Oberzaucher, T. Joel Wade, Leif Edward Ottesen Kennair, Maryanne L. Fisher, Rebecca Burch, 瀧川 諒子 (電力中央研究所, University of Redlands, Juniata College, University of Vienna, Bucknell University, NTNU, Saint Mary's University, SUNY Oswego, 金沢大学)

1C-1145 サステナビリティ・マルチランジションに向けたネットワーク分析

○田崎 智宏, 張 賽璐, 池上 真木彦, 小出 大 (国立環境研究所)

口頭発表 1D-1「大気・化学物質・PFAS・環境汚染(1)」D会場(F310) 9:00–10:30

座長: 亀屋 隆志

1D-0900 PFAS 網羅分析法を用いた室内空気中 PFAS の汚染実態調査と曝露経路別寄与解析

○堀内 宏樹, 宮本 睦子, 谷 涼那, 松神 秀徳, 三宅 祐一 (横浜国立大学, 国立環境研究所)

1D-0915 サンプリングレート一定の極性有機化合物積算サンプラーの開発

○漆畑 瑛登, 野呂 和嗣, 雨谷 敬史 (静岡県立大学, 国立環境研究所)

1D-0930 パッシブサンプリング法の併用による揮発性・準揮発性有機化合物の迅速同時定量手法の検討

○田川 瑛梨, 宮本 睦子, 三宅 祐一 (横浜国立大学)

1D-0945 加熱式たばこ主流煙由来 PAHs・ハロゲン化 PAHs の包括的分析に基づく発がんリスク評価

○南村 紬, 稲葉 洋平, 楠瀬 翔一, 三宅 祐一 (横浜国立大学, 国立保健医療科学院)

1D-1000 化学防護手袋における揮発性有機化合物の透過挙動解析に基づく曝露低減対策の検討

○高橋 希実, 楊 舒涵, 田川 瑛梨, 王 齊, 小野 恵美, 柳場 由絵, 三宅 祐一 (横浜国立大学, 労働安全衛生総合研究所)

1D-1015 地方自治体における大気環境科学研究と行政政策への応用 **[奨励賞受賞記念講演]**

○豊永 悟史 (熊本県保健環境科学研究所)

口頭発表 1D-2「大気・化学物質・PFAS・環境汚染(2)」D会場(F310) 10:45–12:00

座長: 王 齊

1D-1045 カーペット由来 PFAS の放散速度推定の高精度化と室内曝露濃度推計

○谷 涼那, 松神 秀徳, 三宅 祐一 (横浜国立大学, 国立環境研究所)

1D-1100 食品用耐油紙製品中 PFAS の網羅的実態調査に基づく食品移行ポテンシャルの評価

○渡邊 彩香, 栗田 寛大, 小澤 真人, 齋藤 準輝, 島谷 茜, 小柴 絢一郎, 平井 康宏, 松神 秀徳, 三宅 祐一 (横浜国立大学, 京都大学, 国立環境研究所)

1D-1115 粉末活性炭保持フィルターによる地下水中の PFAS 等浄化の妨害要因となるフミン質除去技術の検討

○柴山 遼太郎, 小林 剛, 山内 仁 (横浜国立大学)

- 1D-1130 汚染原因や鉛直土質分布の違いによる砒素の地下浸透挙動予測と地下水汚染の可能性の評価
○藤井 沙織, 小泉 愛結, 福山 遥風, 小林 剛 (横浜国立大学)
- 1D-1145 Study on the Distribution of Bears in Ramsar Wetlands Based on Sighting Reports and Strategies for Dealing with Bears
○タン ソウニ (広島大学)

[1日目(9月3日)午後]

口頭発表 1D-3「気候変動・脱炭素・エネルギー政策(2)」D会場(F310) 14:00–15:30

座長: 増井 利彦

- 1D-1400 都市域における地表面アルベド変化の要因分析: 北九州市若松区を対象とした明色屋根の寄与評価
○楠元 悠希, 加藤 尊秋 (北九州市立大学)
- 1D-1415 南小国町における木質バイオマスの利用可能性評価
○柴田 葵, 諸熊 恵美, 石橋 康弘 (熊本県立大学)
- 1D-1430 河道内植生を活用したバイオマス燃料供給システムの最適化
○山本 千裕, 栗栖 聖, 羽合 佳範, 伊達 貴彦, 福士 謙介 (東京大学, 住友商事)
- 1D-1445 3D都市モデルを用いた大阪市における通学路の日射暴露の評価
石原 詢也, ○杉本 賢二 (大阪公立大学)
- 1D-1500 営農型太陽光発電の実証研究の新展開について
○倉阪 秀史 (千葉大学)
- 1D-1515 森林更新を考慮した埼玉県人工林の木質バイオマス利用による CO₂削減効果の推定
○浅田 智哉, 村野 昭人 (東洋大学)

口頭発表 1D-4「森林・農業・バイオマス・自然資源」D会場(F310) 15:45–17:00

座長: 田畑 智博

- 1D-1545 日本稲作経営の構造的課題に関する実証研究 ——全国稲作農家アンケート調査に基づいて
○劉 華偉, 倉阪 秀史 (千葉大学)
- 1D-1600 日本版プラネタリーヘルスダイエットの移行に向けた性・年齢別食品摂取パターンの解析
○重富 陽介, 松本 健一 (立命館大学, 総合地球環境学研究所, 東洋大学)
- 1D-1615 長期データから見た福島県の空間線量率と土地取引価格の動的関係
○沼田 大輔, 脇山 義史, 石川 智貴, 加倉井 美海, 佐藤 龍之介, 佐藤 英司, 庄子 信利 (福島大学, LAND INNOVATION)

1D-1630 データ駆動型研究による燃料貧困発生リスクの特定を試み

○田畑 智博, 蔡 佩宜 (神戸大学, 九州工業大学)

1D-1645 農作業管理アプリの開発と日本市場への展開 **[発表取り下げ]**

○松村 寛一郎, アローラ スリスティ, アガワル リデゥヒ (金城大学, Ignisnova Robotics Pvt. Ltd.)

[2 日目(9 月 4 日)午前]

口頭発表 2D-1「都市・GIS・リモートセンシング・地域環境」D 会場(F310) 9:00-10:00

座長: 吉田 磨

2D-0900 シラルトロ湖における Landsat-8・9 の衛星画像を用いた浮葉植物植被面積の解析

○井藤 千聖, 吉田 磨, 尾山 洋一, 山田 浩之 (酪農学園大学, 釧路市教育委員会, 北海道大学)

2D-0915 移動 LiDAR 計測による点群データを用いた竹の 3D モデル化

○杉浦 寿哉, 嘉糠 聡乃, 中村 勇斗, 長尾 征洋 (名古屋大学)

2D-0930 サンゴ群集衰退の原因となる赤土流出の陸域環境要因とその空間的・季節的差異 —石垣島・西表島を対象として— **[論文賞受賞記念講演]**

○山本 あゆ夏 (東京大学)

2D-0945 地域脱炭素と森林保全にむけた森林利用や木質バイオマス発電に対する市民の受容性調査

○平松 あい, 大塚 佳臣 (東洋大学)

口頭発表 2D-2「生態・健康・災害」D 会場(F310) 10:15-11:30

座長: 岸上 祐子

2D-1015 AI 新法に見る「未然防止原則」の限界と「予防原則」の具現化とその可能性 —環境行政法における「不確実性行政」へのアプローチ—

○中山 敬太 (早稲田大学)

2D-1030 ワン・ヘルス指標の汎用化に向けた概念体系の整理

○岸上 祐子, 横田 文彦, 馬奈木 俊介 (九州大学)

2D-1045 我が国の住宅密集地における薪ストーブ利用と顕示的消費傾向

○小松 秀徳, 田中 伸幸, 大塚 英幸, 丹羽 忍, 宮嶋 陽司, Rebecca Burch (電力中央研究所, 北海道立総合研究機構, 金沢大学, SUNY Oswego)

2D-1100 自然災害からの長期経過後における格差の変容に関する研究 ～モンゴル国南部の牧民の事例から～

○中村 洋 (山口東京理科大学)

2D-1115 公害環境汚染と生命健康被害の因果関係をめぐる本質的課題に関する一考察 —ナノ・マイクロプラスチック汚染をめぐる「戦略的不確実性」の観点から—

○中山 敬太 (早稲田大学)

ポスター発表(優秀発表賞応募発表を含む)

発表・質疑応答: 9月3日(木) 12:00 – 14:00 (コアタイムは 12:45 – 13:45)

- P-1 スポーツイベントにおける来場者の飲食・移動行動由来カーボンフットプリントの推計
福井 啓太, 周 俊男, ○田畑 智博 (神戸大学)
- P-2 An App-Based Water Footprint Activity for University Students: Qualitative Evidence from a Large First-Year Cohort
○浦 剣 (東洋大学)
- P-3 水晶振動子マイクロバランス (Quartz Crystal Microbalance) 法を利用した気中水銀測定用小型ロガーの改良
○丸本 倍美, 丸本 幸治, 小野 新平 (国立水俣病総合研究センター, 東北大学)
- P-4 日本全国を対象とした出前支出額の要因推定と容器包装プラスチック廃棄物の将来推計
○大西 暁生, 蔡 佩宜, 田畑 智博 (横浜市立大学, 九州工業大学, 神戸大学)
- P-5 心理的距離と環境配慮行動規定因の関連性: 気候変動と廃棄物管理の比較
○糸井 風音, 甲斐田 直子 (筑波大学)
- P-6 離島における電気自動車普及の構造的課題 —島嶼性に着目した予備的考察—
○松村 悠子 (大阪大学)
- P-7 食文化を支える植物の人為的移動と定着メカニズム —江戸川区におけるインド・ネパール系移民のメティ栽培を事例として—
○大野 朋子, 澤 宗則 (神戸大学)
- P-8 市販堆肥および農地土壌に残留する抗菌薬
○石川 奈緒, 佐藤 愛果, 伊藤 歩, 西山 正晃 (岩手大学, 山形大学)
- P-9 Environmental justice in developing countries: Implications from a scoping review of Vietnam studies
○グエン ティ ダン フェ, 甲斐田 直子, 田村 誠 (筑波大学)
- P-10 気候市民会議の提言受容の規定因 ——杉並区気候区民会議とあつぎ気候市民会議を事例として——
○前田 洋枝, 竹内 彩乃 (南山大学, 東邦大学)
- P-11 再エネ熱・地中熱の普及施策・導入状況に関する地方自治体アンケート調査
○富樫 聡, 中山 宏之 (産業技術総合研究所)
- P-12 片づけ行動の因子構造と持続可能な消費行動との関連
○吉田 綾 (国立環境研究所)
- P-13 地中性ミミズがマイクロプラスチックの劣化に与える影響
○志村 優太, 後藤 裕子 (山梨大学)

- P-14 開発途上国における廃棄物エネルギー回収技術導入に関する民間連携協力事業の教訓と課題
○吉田 充夫（国際環境協力ネットワーク，国際協力機構）
- P-15 土壌環境基準を2倍超過した場合どの程度おそれるべきか？ ―学生へのアンケートによる意識調査と正しいリスク認知のための考察―
○小林 剛，藤井 沙織，山関 一聖，福山 遥風（横浜国立大学）
- P-16 日本産地中性ミミズにおけるナノプラスチックの亜致死影響評価
○石川 潤，後藤 裕子（山梨大学）
- P-17 3種類のデータベースを用いた GC/MS スクリーニング分析による水道水中農薬の定性・定量精度の比較
○小林 憲弘，山本 梓，北原 健一，金子 丈志，大窪 かおり（国立医薬品食品衛生研究所，佐賀県衛生薬業センター）
- P-18 南栗橋駅前街区「BRIDGE LIFE Platform」構想におけるマルチベネフィット型モビリティの社会実装に向けた取り組みの現状と展望
相川 大樹，中林 寛人，○BAN XIAODONG，江野 彩雅，小野田 弘士（早稲田大学）
- P-19 テキストマイニングを用いたサンゴ礁生態系保全行動計画の時系列分析
○岩見 麻子，久保 慶明（熊本県立大学，関西学院大学）
- P-20 世代間フレーミングがカーボンリサイクル技術に対する態度に及ぼす影響―生活史理論に基づく4カ国比較調査―
○瀧川 諒子，小松 秀徳，田中 伸幸，Maryanne L. Fisher，Leif E. O. Kennair（金沢大学，電力中央研究所，Saint Mary's University，NTNU）
- P-21 学校現場における気候変動適応の実態と課題
○絹川 グリボスタン，栗栖 聖（東京大学）
- P-22 電力データによる空き家判定・分散型エネルギーリソース導入検討
○梁 霆鈞，定行 泰浦，有村 俊秀，呂 冠宇（早稲田大学，成城大学）
- P-23 パッシブサンプリング法の併用による揮発性・準揮発性有機化合物の迅速同時定量手法の検討
○田川 瑛梨，宮本 睦子，三宅 祐一（横浜国立大学）
- P-24 シラルトロ湖における Landsat-8・9 の衛星画像を用いた浮葉植物植被面積の解析
○井藤 千聖，吉田 磨，尾山 洋一，山田 浩之（酪農学園大学，釧路市教育委員会，北海道大学）
- P-25 大気中の多環芳香族炭化水素類およびハロゲン化誘導体の長期動態解析とリスク評価
○滝川 哲也，雨谷 敬史，野呂 和嗣（静岡県立大学，国立環境研究所）
- P-26 養殖スマの筋肉組織に蓄積する水銀・PCBs レベルの変動要因 ～摂餌による解析～
○須之内 朋哉，斎藤 大樹，後藤 理恵，国末 達也（愛媛大学）

- P-27 中国におけるアグリボルタイクスの社会解釈と社会実装
○徐 雨晨（早稲田大学）
- P-28 日本人は気候変動をどう認識するか？気候変動への態度に基づく類型化とその特徴
○新井 智, 本藤 祐樹（横浜国立大学）
- P-29 Transitioning to Sustainable Food Systems in Japan: A Case Study of the Midori Strategy and Stakeholder Dynamics
○アソカン ニスヤシュリー（東京大学）
- P-30 加熱式タバコから放散される硝酸、亜硝酸、ニコチン、タバコ特異的ニトロソアミン類、アルデヒド類およびそれらに関連する健康リスク
○永長 愛華, 野呂 和嗣, 雨谷 敬史（静岡県立大学, 国立環境研究所）
- P-31 パッシブサンプラーを用いたブローア・チェンソー由来の揮発性有機化合物の清掃員への初期健康リスク評価
○今出 夢乃, 野呂 和嗣, 雨谷 敬史（静岡県立大学, 国立環境研究所）
- P-32 3D コンクリートプリンティング住宅の脱炭素化ポテンシャル評価 ―木造軸組工法との比較ライフサイクル CO₂分析―
○原 多輝, 重富 陽介（立命館大学）
- P-33 食品接触材料中の有機フッ素化合物濃度の調査と素材特性の影響評価
○植松 龍也, 三国 向日葵, 野呂 和嗣, 三宅 祐一, 雨谷 敬史（静岡県立大学, 国立環境研究所, 横浜国立大学）
- P-34 マウスの血漿、組織、尿・糞便を対象としたペルフルオロカルボン酸の一斉分析法の開発
○三国 向日葵, 蒲原 央夏, 岩瀬 麻里, 内田 邦敏, 三宅 祐一, 野呂 和嗣, 雨谷 敬史（静岡県立大学, 横浜国立大学, 国立環境研究所）
- P-35 気候変動適応および人口動態変化を考慮した災害備蓄需要量の将来推計
○大浦 拓真, 重富 陽介（立命館大学）
- P-36 都道府県別の利用特性と人口動態に着目した自家用車の電動車移行によるCO₂削減効果の解析
○河本 竜祐, 中本 裕哉, 重富 陽介（立命館大学, 大分大学）
- P-37 ブルーカーボン創出に向けた藻場保全活動に関する事例分析: 地方自治体の役割に着目して
○梅原 有彩, 野津 喬（早稲田大学）
- P-38 加熱式タバコに含まれる有害元素とタバコ特異的マーカーの探索
○青木 遥輝, 雨谷 敬史, 野呂 和嗣（静岡県立大学, 国立環境研究所）
- P-39 水産物環境認証を付与されたワカメの価格プレミアムに関する分析
○山本 裕太郎, 中野 牧子（名古屋大学）
- P-40 プラスチックの分解と分解物の同定
○宮副 瑛輝, 岡崎 恭也, 諸熊 恵美, 石橋 康弘, 中道 隆広（熊本県立大学, 長崎総合科学大学）

- P-41 数理最適化を用いた廃プラケミカルリサイクル施設の最適配置モデルの実証
○山形 優斗（法政大学）
- P-42 多環芳香族炭化水素の吸着が海洋プラスチックに及ぼす光分解促進効果の評価
○渡辺 拓海, 滝川 哲也, 雨谷 敬史, 野呂 和嗣（静岡県立大学, 国立環境研究所）
- P-43 都市域における地表面アルベド変化の要因分析：北九州市若松区を対象とした明色屋根の寄与評価
○楠元 悠希, 加藤 尊秋（北九州市立大学）
- P-44 加熱式たばこ主流煙由来 PAHs・ハロゲン化 PAHs の包括的分析に基づく発がんリスク評価
○南村 紬, 稲葉 洋平, 楠瀬 翔一, 三宅 祐一（横浜国立大学, 国立保健医療科学院）
- P-45 南小国町における木質バイオマスの利用可能性評価
○柴田 葵, 諸熊 恵美, 石橋 康弘（熊本県立大学）
- P-46 移動 LiDAR 計測による点群データを用いた竹の 3D モデル化
○杉浦 寿哉, 嘉糠 聡乃, 中村 勇斗, 長尾 征洋（名古屋大学）
- P-47 化学防護手袋における揮発性有機化合物の透過挙動解析に基づく曝露低減対策の検討
○高橋 希実, 楊 舒涵, 田川 瑛梨, 王 齊, 小野 恵美, 柳場 由絵, 三宅 祐一（横浜国立大学, 労働安全衛生総合研究所）
- P-48 カーペット由来 PFAS の放散速度推定の高精度化と室内曝露濃度推計
○谷 涼那, 松神 秀徳, 三宅 祐一（横浜国立大学, 国立環境研究所）
- P-49 変動性再生可能エネルギーの導入下における蓄電池導入のインセンティブに関する研究
○山西 友貴, 棟居 洋介, 金森 有子, 土屋 一彬, 増井 利彦（東京科学大学, 国立環境研究所）
- P-50 汚染原因や鉛直土質分布の違いによる砒素の地下浸透挙動予測と地下水汚染の可能性の評価
○藤井 沙織, 小泉 愛結, 福山 遥風, 小林 剛（横浜国立大学）
- P-51 粉末活性炭保持フィルターによる地下水中の PFAS 等浄化の妨害要因となるフミン質除去技術の検討
○柴山 遼太郎, 小林 剛, 山内 仁（横浜国立大学）
- P-52 サンプリングレート一定の極性有機化合物積算サンプラーの開発
○漆畑 瑛登, 野呂 和嗣, 雨谷 敬史（静岡県立大学, 国立環境研究所）
- P-53 PFAS 網羅分析法を用いた室内空気中 PFAS の汚染実態調査と曝露経路別寄与解析
○堀内 宏樹, 宮本 睦子, 谷 涼那, 松神 秀徳, 三宅 祐一（横浜国立大学, 国立環境研究所）

- P-54 食品用耐油紙製品中 PFAS の網羅的実態調査に基づく食品移行ポテンシャルの評価
○渡邊 彩香, 栗田 寛大, 小澤 真人, 齋藤 準輝, 島谷 茜, 小柴 絢一郎, 平井 康宏, 松神 秀徳, 三宅 祐一 (横浜国立大学, 京都大学, 国立環境研究所)
- P-55 プラスチックの分解プロセスから生成する油状成分の分析
○岡崎 恭也, 宮副 瑛輝, 諸熊 恵美, 石橋 康弘, 中道 隆広 (熊本県立大学, 長崎総合科学大学)
- P-56 廃材から環境負荷の少ない燃料電池の作製 ～祭りの廃材である竹の有効活用法の開発～
○市川 優輝, 山崎 翔太 (兵庫県立飾磨工業高校)
- P-57 水俣市内における淡水魚類の分布とその保全について
○大澤 風季, 柳生 佐保, 丸本 倍美, 丸本 幸治 (熊本県立水俣高等学校, 国立水俣病総合研究センター)
- P-58 ポイ捨てゴミから排出される水銀の環境影響評価
○梅川 明日香, 柳生 佐保, 丸本 倍美, 丸本 幸治 (熊本県立水俣高等学校, 国立水俣病総合研究センター)
- P-59 僕達が誇る水俣の海～魚の水銀調査から
○馬城 昭寿, 森 竹幸, 大澤 風季, 柳生 佐保, 丸本 倍美, 丸本 幸治 (熊本県立水俣高等学校, 国立水俣病総合研究センター)
- P-60 僕達が誇る水俣の海～「水俣の海」に関する若者の意識調査
○森 竹幸, 馬城 昭寿, 柳生 佐保, 丸本 倍美, 丸本 幸治 (熊本県立水俣高等学校, 国立水俣病総合研究センター)
- P-61 有色鉱物の累帯構造を指標として岩石が形成された環境を推定する ―ニュージーランド南東部の深成岩～変成岩について―
○田路 倖太, ○小田 翔太郎, 西川 大貴, 山口 歩珠, 辻本 ゆき乃, 藤本 知真, 松岡 沙和, 板家 有良, 関尾 悠起, 多田 悠希, 和田 知優 (兵庫県立姫路東高等学校)
- P-62 LSTM を用いた短時間電力需要予測における外気温応答遅れ特性の検証
○祖田 来夏, 藤山 淳史, 松本 亨 (北九州市立大学)
- P-63 再生プラスチック原料のアップサイクルに向けた洗浄・評価技術の開発
○松下 奈央, 榎本 剛司, 徳村 雅弘, 牧野 正和, 舟久保 知輝, 坂本 伸一 (静岡県立大学, 川上産業)
- P-64 SROI (社会的投資収益率) を用いた自治体主導の家具リペア・リユース事業の社会的価値分析
○松井 珠慧, 井尻 桃香, 藤山 淳史, 松本 亨 (北九州市立大学)
- P-65 環境 DNA による石川県の淡水魚類相調査 ―高校生主体の地域調査ネットワーク―
○干場 智貴, 閑軒 康太郎, 中村 陸人, 干場 真歩, 駒井 結翔, 酒本 一輝, 田口 一生, 谷口 豪紀, 林 真衣, 久田 唯心, 和田 浩輝 (石川県立七尾高等学校)

- P-66 SG（分離）モデルの LCA における時間的・空間的解像度に関する考察
○竹内 綾音, 松本 亨, 藤山 淳史（北九州市立大学）
- P-67 放置竹林問題を理解するための竹の存在量の可視化
○嘉糠 聡乃, 杉浦 寿哉, 中村 勇斗, 長尾 征洋（名古屋大学）
- P-68 3D 点群データを活用した日陰資源シミュレーション
○山田 明佳, 中村 勇斗, 長尾 征洋（名古屋大学）

企画シンポジウム

シンポジウムー１ 9月3日（木） A会場（F304） 14：00 ～ 16：30

「「より良い」環境とは何か、どう創出できるのか？
～再生の視点, planetary health の視点～」

オーガナイザー 渡辺知保（長崎大学）特命教授
山内太郎（北海道大学）教授

挨拶：渡辺知保（長崎大学）

趣旨説明：本学会の設立趣旨には「人間活動と自然環境の調和を維持し、豊かな環境を創造する新たな方策を探求すること」という表現があるが、この“豊かな環境”像は時代とともに変化してきたと思われる。この10年間、Triple Planetary Crisisの深刻化、生成AIの急速な普及など、いずれも急速で前例のない社会環境・自然環境変化を目の当たりにし、ネーチャーポジティブなど社会の大きな変革を伴う対策が打ち出される中、現時点における“より良い、豊かな環境”とは何だろうか。

都市工学、保全生態学、建築設計、人類生態学、人口学と専門を異にする方々に、それぞれの“豊かさの軸“・”豊かさの感覚“について自由にお話しいただいた上で、パネルでは、“豊かな環境”の創出に必要なプロセスについて議論したい。

講演者：①「より良い環境とは？～都市と地方再生の立場から」

藤田壮（東京大学・教授）

②「豊かな環境とは？～木材利用と木造建築 ～建築設計の立場から」

石川修次（竹中工務店・上席専任部長／大阪大学・招聘准教授）

③「人が減る時に起こること（仮）」

林玲子（国立社会保障・人口問題研究所・所長）

④「より良い環境とは？～保全生態学の立場から」

曾我昌史（東京大学・准教授）

⑤「循環するケアとしての環境：Planetary Health時代の“豊かな環境”を
地域共創から考える」

山内太郎（北海道大学・教授）

総合討論・質疑応答

司会：渡辺知保・山内太郎

シンポジウムー2 9月3日（木） B会場（F306） 14：00 ～ 16：30

「循環経済移行に資する資源循環トレーサビリティの開発とその活用可能性に関する研究」

プロジェクト名：環境研究総合推進費 3-2401

「秘匿性と公開検証性を両立させたブロックチェーン技術によるプラスチック循環のマスバランス方式等評価手法確立と消費者行動への影響分析」

オーガナイザー 松本 亨（北九州市立大学）教 授
藤山淳史（北九州市立大学）准教授

挨拶：松本 亨（北九州市立大学）教授

趣旨説明： Chain of Custody（CoC：管理の連鎖）やデジタル製品パスポート（DPP）の動向、国内外で実施されている様々な実証事業の動向を踏まえ、今後の資源循環トレーサビリティの在り方とそれが実現することによる効果について議論する。まず、CoC や DPP の国内外の動向についてレビューし、資源循環トレーサビリティに求められる要件を整理する。さらに、トレーサビリティを可能とする情報プラットフォーム（PF）について、その技術開発動向や情報連携のための社会システムを議論する。さらに、情報 PF で取得した情報を用いた環境評価とその活用先としての消費者へのフィードバックの効果等について議論する。

講演者：①「資源循環における情報システムとトレーサビリティ」

○松岡浩史（資源循環ネットワーク）事務局長

②「日欧の循環政策比較とプラットフォームで連携すべき情報群の検討」

○林 志浩（地球環境戦略研究機関）上席研究員

③「ブロックチェーン技術を用いた秘匿性と公開検証性をもつ情報プラットフォームの開発」

○荒木俊輔（九州工業大学）准教授

④「情報プラットフォームを活用した環境評価手法の検討」

○松本 亨（北九州市立大学）教授

藤山淳史（北九州市立大学）准教授

⑤「環境情報が消費者行動に与える影響と行動変容の可能性」

○藤山淳史（北九州市立大学）准教授

松本 亨（北九州市立大学）教授

総合討論

司 会：藤山淳史（北九州市立大学）准教授

シンポジウムー3 9月3日（木） C会場（F308） 14：00 ～ 16：30

「大都市のリジェネレーションのこれまでとこれから」

オーガナイザー 白井信雄（武蔵野大学）教授

明石修（武蔵野大学）准教授

挨拶：白井信雄（武蔵野大学）教授

趣旨説明：日本のサステナビリティを考える際、地方圏においては自然資源を基盤とした地域内循環の方向性を描くことが可能である。一方で、大都市圏、とりわけ東京圏は、その集積規模の大きさと高密度性ゆえに、地方圏への依存を不可避としている。地域循環共生圏が掲げる都市と農山村の相互補完的な関係（Win-Win）の構築は重要な視点であるが、地方圏からの人口流入を大都市圏が継続的に受け入れ続ける限り、地域間の公平性の確保には限界がある。

このため、分散型国土の形成に向けては、大都市圏への人口集中の抑制を進める必要があり、それと同時に大都市圏そのものの再生（リジェネレーション）を進める必要がある。本シンポジウムでは、大都市圏における「自然と人との関係」および「人と人との関係」の再構築に焦点を当て、その実現に向けたビジョンと方策を検討する。

具体的には、大都市圏拡大の象徴として整備されてきた臨海エリアのこれまでの役割と今後のあり方を再評価するとともに、都市内部におけるパーマカルチャーなどの実践、未利用資源の活用、コミュニティ形成の新たな取り組みといった多様な視点から、大都市圏のリジェネレーションの方向性と実践的方策を探る。

講演者：①「人口減少時代における東京臨海地域のあり方～縮小時代を先取りするビジョンと参加の仕組みを考える」

白井信雄（武蔵野大学）教授

②「コミュニティガーデンを通じた人・地域・自然のリジェネレーション」

明石修（武蔵野大学）准教授

③「市民主導でリジェネラティブ社会をつくる。～世界の潮流と大学での資源循環をつくる試みを通じて考える」

鈴木奈央（武蔵野大学）准教授

④「下町におけるSDGs未来都市の『現場への落とし込み』プロセス～コーディネーターの境界連結活動と『4つの基本技能』に着目して」

伊藤佑真（武蔵野大学）

⑤「顔の見える関係づくりから始まる、リジェネラティブ・シティ～都市の豊かな資本を活かし、共創と循環のエコシステムをつくろう」

広石拓司（株式会社エンパブリック）代表取締役

総合討論

司会：明石修（武蔵野大学）准教授

シンポジウムー4 9月4日（金） A会場（F304） 9：00 ～ 11：30

学術賞受賞記念シンポジウム

「地域をテストベッドとする持続的なグリーン水素社会システムの検証」

プロジェクト名：文部科学省 J-PEAKS 社会実装加速化イニシアティブ

「グリーン水素を核に世界屈指の研究力を強化し、グリーンイノベーションで
地方創生を先導」

オーガナイザー 島崎 洋一（山梨大学）教授

沼田 大輔（福島大学）教授

挨拶：島崎 洋一（山梨大学）教授

趣旨説明： 山梨大学では、グリーン水素に関係する研究・教育のリソースを集約し、統轄的・戦略的に推進するための「グローバル・ニュートラル・エネルギー研究機構（GR/EEN）」を2025年に設立した。J-PEAKSの研究計画において、4つのイニシアチブ（先鋭研究強化・多階層頭脳循環・社会実装加速化・人材育成）が示されている。本シンポジウムでは、福島大学との連携で検討を開始した社会実装加速化イニシアティブに焦点をあて、地域をテストベッドとする持続的なグリーン水素社会システムの検証に向けて、情報提供や今後の方針を意見交換する。

講演者：①「脱炭素社会に向けた水素の最前線～山梨の産学官連携における挑戦～」

稲垣 有弥（山梨大学）特任助教

②「リニア山梨県駅周辺地域における燃料電池導入の省エネルギー効果」

島崎 洋一（山梨大学）教授

③「運輸部門を中心としたシミュレーションによるCO₂削減モデル検証」

武藤 慎一（山梨大学）教授

④「小規模分散型のバイオマス由来水素・炭化物製造と利活用」

浅田 隆志（福島大学）教授

⑤「地域経済の発展につながる水素社会の実現に向けた取組の構想」

沼田 大輔（福島大学）教授

岩井 秀樹（福島大学）特任教授

総合討論

司会：沼田 大輔（福島大学）教授

シンポジウムー5 9月4日（金） B会場（F306） 9：00 ～ 11：30

学術賞受賞記念シンポジウム

「環境意識・行動の促進に向けた情報提供のあり方」

オーガナイザー 栗栖 聖（東京大学）
青木 えり（横浜市立大学）

挨拶：栗栖 聖（東京大学）

趣旨説明： 近年、気候変動や生物多様性の損失など、地球規模の環境問題が深刻化する中で、市民一人ひとりの意識と行動の変容がこれまで以上に求められている。そのような中、環境に配慮した行動を促進するための重要な手段のひとつとして、「科学的情報の提供」が挙げられる。しかしながら、単に正確な情報を提示するだけでは、人々の関心や理解、さらには具体的な行動変容へと結びつかない場合も多い。では、私たちはどのように科学的知見を伝え、市民とコミュニケーションしていくべきなのだろうか。本シンポジウムでは、各分野で実践的な取り組みを行っている登壇者の事例を共有し、効果的な情報発信の手法や課題について多角的に議論する。

講演者：①「市民の環境配慮行動促進に向けた心理的影響因子の評価」

青木 えり（横浜市立大学 国際教養学部 都市学系）

②「ライフサイクル思考醸成に向けた情報提供」

栗栖 聖（東京大学 大学院工学系研究科 都市工学専攻）

③「ナラティブ情報の提供による環境行動の促進」

中野 祐樹（横浜国立大学 大学院環境情報研究院）

④「3D デジタル空間を用いた環境防災教育ツールの開発と実践」

小野 桂介（東北工業大学 工学部 都市工学課程）

⑤「科学を“自分ごと”にするには ― 市民と環境情報をつなぐ言葉の設計」

椿 玲未（株式会社エウサピア）

総合討論：科学情報の在り方と市民とのコミュニケーション

司会：栗栖 聖（東京大学）

シンポジウムー6 9月4日（金） C会場（F308） 9：00 ～ 11：30

「水と人の関係性の再編に向けて—価値観・インフラ・社会の統合的理解—」

オーガナイザー 村上道夫（大阪大学）教授
 中村高志（山梨大学）准教授

挨拶：中村高志（山梨大学）准教授教授

趣旨説明：近年、水インフラの老朽化や維持管理の負担増大、災害リスクの顕在化を背景として、水環境は転換期を迎えている。集中型に加え分散型インフラへの関心も高まり、こうした変化は価値観や意思決定のあり方に新たな問いを投げかけている。これまで本シンポジウムでは、水と人の関係性や価値観に着目し、第1回ではその構造を、第2回では水インフラと地域社会の関わりを議論してきた。本シンポジウムでは、これらを踏まえ、水環境をめぐる価値観とインフラの関係を統合的に捉え、実践への接続を検討する。多様な分野の知見をもとに、水インフラの集中化・分散化とそれを支える社会の仕組みについて議論する。

講演者：①「水道料金および治水安全度における分配的公正選好と年齢の影響」

村上道夫（大阪大学）教授、中居楓子（東京大学）、森田
紘圭（大日本ダイヤコンサルタント株式会社）、中村晋一郎（名古屋大学）

②「水インフラにおける〈よい状態〉：ケアと応答可能性（Response-ability）
からの人類学的考察」

難波美芸（千葉大学）准教授

③「社会水文モデルによる洪水リスク不均衡の長期変動解析」

中村晋一郎（名古屋大学）准教授、荒瀬奈摘（名古屋大
学）、Romitha Wickramasinghe（名古屋大学）

④「分散型水インフラを支えるコミュニティの条件」

野田岳仁（法政大学）教授

⑤北海道における小規模分散型水供給システムの実態：運用の特徴と課題

長谷川祥樹（北海道立総合研究機構／東北大学）
主査／博士後期課程、牛島健（北海道立総合研究機構）、大石若菜（東北大
学）、門屋俊祐（国土技術政策総合研究所）、佐野大輔（東北大学）

総合討論

コメンテータ：標葉隆馬（慶應義塾大学）准教授

司会：村上道夫（大阪大学）教授、中村高志（山梨大学）准教授